

## 公表 事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	ローゼルこどもDayさぼーとⅡ		
○保護者評価実施期間	令和7年 12 月 5 日		～ 令和7年 12 月 19 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数) 1名
○従業者評価実施期間	令和7年 12 月 20 日		～ 令和7年 1 月 20 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1 月 30 日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	身辺自立に向けたきめ細やかな支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>着替え、裏表の確認や畳み方の指導</li> <li>持ち物の管理</li> <li>排泄時の適切な処理の仕方や正しい手洗い方法の指導</li> <li>食事の姿勢や箸の使い方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特性や能力に合わせた小集団での支援を行う</li> <li>排泄や水分補給を自主的に行えるような意思確認の徹底</li> <li>体幹トレーニングや、手指を使った制作活動や遊びを多く取り入れるための支援会議</li> </ul>
2	ソーシャルスキルトレーニングの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動やレクで距離感を掴む練習</li> <li>声のものをさしを使った練習</li> <li>気持ちカードを利用した感情や表情理解</li> <li>「こんな時どうする」の例題を使ったコミュニケーション術</li> <li>個々に合ったクールダウン方法の練習など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日の活動にレクやSSTの時間を設ける</li> <li>土曜祝日や長期休みには施設外活動を行い、公共施設でのルールやマナーを実践</li> </ul>
3	敷地に広い園庭やパークがあり、同グループの事業所も隣接している	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日行う運動プログラムやサーキットトレーニングで体感を鍛える</li> <li>隣接する事業所との定期的な交流活動</li> <li>同グループ近隣事業所（4カ所）との集団活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダンスやボール遊び、遊具を使ったサーキットやレクを取り入れ、運動プログラムの充実を図る</li> </ul>

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域住民との交流の場が限られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全面や人員体制の観点から交流活動が限定的で、地域との連携が不十分</li> <li>児童の特性を考慮すると図書館等静かにしないといけない場所の利用が難しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域のイベントに少人数で短時間の参加をしてみる</li> <li>公民館や公園等のクリーン活動を積極的にを行い、児童の特性や活動内容を知ってもらう</li> </ul>
2	翌月の外出支援計画を立て実施することが難しい	<ul style="list-style-type: none"> <li>重度で個別にサポートが必要な児童が多く、痾癩を起こしたり他害行為がある児童の状態に左右される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1ヶ月前に同グループから児童指導員の応援要請を行う</li> </ul>
3	児童の能力の差により活動内容の難易度設定が難しい	<ul style="list-style-type: none"> <li>送迎に出る職員がいるため手薄になる</li> <li>マンツーマン対応が必要な児童が多く、能力の高い児童に待ち時間が発生してしまう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループに分けたプログラムを確立する</li> <li>支援スキルの統一を図る</li> </ul>

## 公表 事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

○事業所名	ローゼルこどもDayさぼーとⅡ		
○保護者評価実施期間	令和7年 12 月 5 日		～ 令和7年 12 月 19 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	令和7年12月20日		～ 令和8年1月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	身辺自立に向けたきめ細やかな支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着替え、裏表の確認や畳み方の指導</li> <li>・持ち物の管理</li> <li>・排泄時の適切な処理の仕方や正しい手洗い方法の指導</li> <li>・食事の姿勢や箸の使い方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特性や能力に合わせた小集団での支援を行う</li> <li>・排泄や水分補給を自主的に行えるような意思確認の徹底</li> <li>・体幹トレーニングや、手指を使った制作活動や遊びを多く取り入れるための支援会議</li> </ul>
2	ソーシャルスキルトレーニングの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動やレクで距離感を掴む練習</li> <li>・声のものをさしを使った練習</li> <li>・気持ちカードを利用した感情や表情理解</li> <li>・「こんな時どうする」の例題を使ったコミュニケーション術</li> <li>・個々に合ったクールダウン方法の練習など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の活動にレクやSSTの時間を設ける</li> <li>・土曜祝日や長期休みには施設外活動を行い、公共施設でのルールやマナーを実践</li> </ul>
3	敷地に広い園庭やパークがあり、同グループの事業所も隣接している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日行う運動プログラムやサーキットトレーニングで体感を鍛える</li> <li>・隣接する事業所との定期的な交流活動</li> <li>・同グループ近隣事業所（4カ所）との集団活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンスやボール遊び、遊具を使ったサーキットやレクを取り入れ、運動プログラムの充実を図る</li> </ul>

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域住民との交流の場が限られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全面や人員体制の観点から交流活動が限定的で、地域との連携が不十分</li> <li>・児童の特性を考慮すると図書館等静かにしないといけない場所の利用が難しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のイベントに少人数で短時間の参加をしてみる</li> <li>・公民館や公園等のクリーン活動を積極的にを行い、児童の特性や活動内容を知ってもらう</li> </ul>
2	翌月の外出支援計画を立て実施することが難しい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重度で個別にサポートが必要な児童が多く、痾癢を起こしたり他害行為がある児童の状態に左右される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1ヶ月前に同グループから児童指導員の応援要請を行う</li> </ul>
3	児童の能力の差により活動内容の難易度設定が難しい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・送迎に出る職員がいるため手薄になる</li> <li>・マンツーマン対応が必要な児童が多く、能力の高い児童に待ち時間が発生してしまう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループに分けたプログラムを確立する</li> <li>・支援スキルの統一を図る</li> </ul>